

【前期 第7問】

設問1 甲が公園を散歩していたところ、Xがつけた首輪を振りほどいてXの飼い犬が突然甲に向かって走り出し、甲の右足に噛みついた。甲はこれに慌てて抵抗し、落ちていた木の枝で数回犬の頭を殴りつけた。これによってこの犬は死ぬに至った。

甲の罪責を論ぜよ。

設問2 乙(52歳、中肉中背)は近所のバーで一人で飲んでいたら、隣に座ったY(67歳、小柄)と口論になり、「一回酔いを醒ませ」と言って置いてあった水をYに向かって浴びせかけた。Yはこれに「お前こそ酔いすぎに違いない」と返し、乙の左頬を思いっきり殴りつけた。乙は逆上して、Yの顔面及び左わき腹を力一杯殴りつけた。この結果、Yは全治約2週間に至る顔面挫創と肋骨にひびが入り、入院することとなった。

乙の罪責を論ぜよ。

参考判例:最高裁平成20年5月20日第二小法廷判決